

『職場防災力』の向上 ～行動マニュアルの作成とその過程で得たこと～

首都国道事務所 総務課 石野田 学

1. はじめに

私たちは、幼少のころから様々な「避難訓練」や「防災訓練」を何度も経験してきました。思い返せばシナリオどおりの訓練はマンネリ化することも多く、実務担当者以外の参加者は緊張感や当事者意識が希薄になってはいなかったでしょうか。

災害発生時にどんなことが起こり、また、それに対して総務課はどのような行動をとればよいか、総務課の職員がブレインストーミング形式で自由に意見交換を行いました。

2. 目的・背景

総合地震防災訓練の結果、総務班において災害発生時、次々と起こる想定外の事態に対して何をしてよいかわからず指示を待つのではなく、各職員が自ら考えて動くことができるようになることの重要性を痛感しました。

これを機に、『職場防災力』の向上にむけて、いざ地震が起きたときに総務課はどのような行動をとればよいかを再検討する必要があると考えました。

3. 実施内容

ブレインストーミング（表-1）は、グループディスカッションによってアイデアを引き出す手法のひとつですが、緊張していたり、気分が乗っていない時には脳の活動も鈍くなるため、普段の会議や打合せとは一線を画する必要があります。そこで、畳敷きの部屋にテーブルと座布団をセットし、飲み物とお菓子を用意して、参加した職員がリラックスして会話を楽しめるような雰囲気 연출しました。

表-1

ブレインストーミングとは

ブレインストーミング（Brain Storming：BS法）とは、集団でアイデアを出し合うことで、一人では考えつかない発想を組み合わせ、斬新なアイデアが生まれることを期待した会議手法。

4つのルール

- ・批判厳禁
- ・自由奔放
- ・質より量
- ・便乗する（アイデア同士の結合）

4. テーマとアイデア出し

「大地震～グラッときたら、どーする？総務課！～」をテーマに、総務課として、職員の安全を確保しつつ、いかに災害対策支部が立ち上がるまでの初動時間を短縮するかを念頭に、意見交換を行いました。

まず、大地震が起こったときの自分の行動をそれぞれがイメージして、起こりうるリスクの洗い出しを行いました。

ステップ1として「大地震では何が起きるか」、ステップ2として「そのとき、どのような行動を取ればよいか」について話し合い、出てきた様々な意見を付箋紙に書き出して

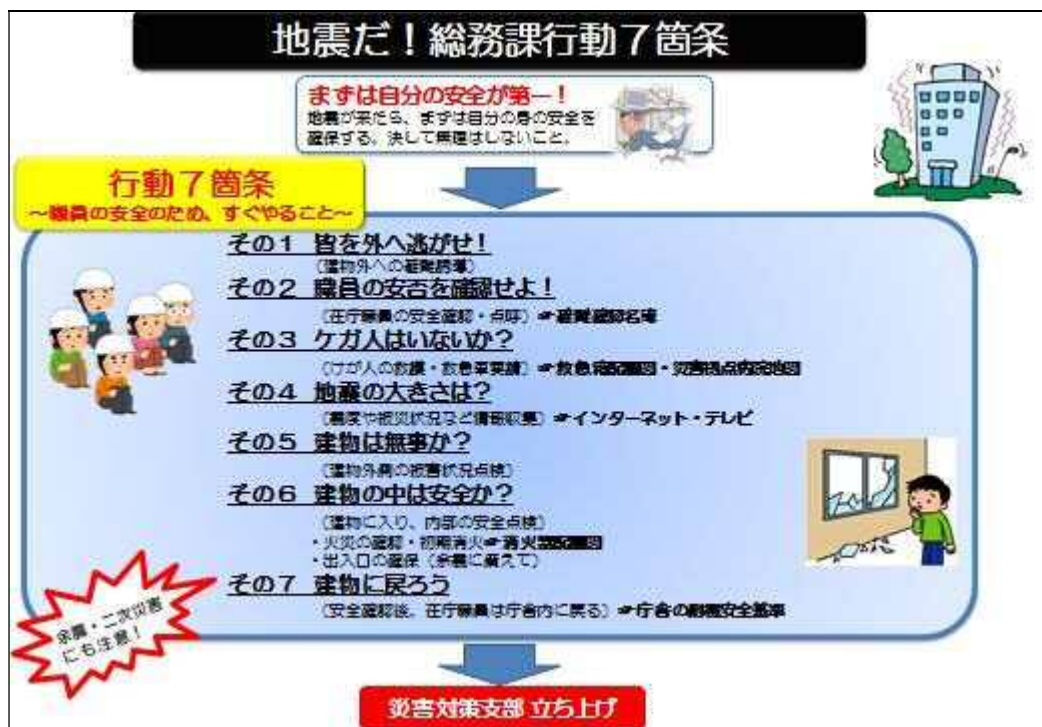
白いパネルに貼り出しました。(表-2)

表-2



具体的には身の安全・避難誘導・けが人の救護からその後の総務班の活動まで、様々なことを想定した意見が出され、優先順位をつけて整理し、地震直後の総務課の行動指針を「可視化」「共有化」し、災害に備えるための「総務課行動7箇条」を作成しました。(表-3)

表-3



また、初動から時間の経過とともに行動の内容も変化すると想定されることから、以下の表（表－４）を作成し、表の項目ごとに必要な情報を整備した「総務課震後行動マニュアル」を作成しました。

表－４



5. 成果

「もしもの時」をイメージし、言葉にし、共有することで、自分の行動のイメージをよりリアルに感じることができ、時間の経過とともに、生じる課題や行動の優先順位も変化していくことを疑似体験することができました。それが「総務課行動7箇条」と「総務課震後行動マニュアル」という形になりました。

また、今回のディスカッションで、職員が本気で「まずは命を守り、状況を把握しその後の業務を継続するための基盤を作る」という災害時の「初動中の初動」について考え、自分だけでは想定しきれなかった事態も、他の職員の意見を聞くことで見識が広がり、リスクの共有がなされ、総務課職員全員が「防災意識の底上げ」を図ることができました。

6. 考察・今後の課題

この行動マニュアルを用いて繰り返し防災訓練を重ねることで、初動対応が浸透し、また、次に何が起き、それにどう備えるかを自ら考えて行動できるようになることが期待できます。

実際の総合地震防災訓練を通じて、今回作成した行動指針を利用して避難誘導などの効果を検証する必要があります。

7. 今後の方針

職員の異動により、職員間で共有された防災意識が失われないよう、新たに異動してきた職員を交えて定期的にブレインストーミングによるディスカッションを行うことで、防災意識の共有とさらなる向上を図るとともに、マニュアルのブラッシュアップを行っていきたいと考えています。